

飲酒運転を体験した 講習参加者の感想



古賀 久美代さん
(タクシー運転手・間)

ビールを少し飲んだだけだったので、運転は問題なくできておりました。しかし、実際に運転すると、障害物に気付かずぶつかってしまい、視野が狭くなっていると感じました。また、障害物に当たりそうになっても「当たってもいいや」と思ってしまうなど運転が雑になってしまいました。お酒は少しでも運転に影響が出るんですね。



梅崎 新吾さん
(学生・七ツ家)

この講習に参加するまでは、お酒を飲んでも安全運転くらいでできておりました。しかし、実際にお酒を飲んで運転すると、思うように運転できなかったのが驚きました。頭ではイメージできていても体が動かないんです。今回、飲酒運転の危険性を身を持って体験できたことは、本当によかったです。今日の経験は、友人たちにしっかり伝えます。

注意

お酒はなかなか抜けません

純アルコール約 20g を含む酒

- ・ビール 500ml
- ・日本酒 1合
- ・ワイン小グラス 2杯 (200ml)
- ・ウイスキーダブル 1杯

アルコールの分解に 3 ~ 4 時間

体内でのアルコールを分解する速さは、体重 1kg につき 1 時間で 0.1g。体重 60kg の人が 20g のアルコールを分解するのに、最低でも 3、4 時間かかるといわれています。二日酔いでも飲酒運転になるのでご注意ください。



【写真上】飲酒運転を体験するために酒を飲む参加者【写真中】飲酒前後に適性検査機器でハンドル操作を比較【写真下】講習の最後に参加者全員で検討会を行い、率直な意見を出し合った

＜表＞ 飲酒前後の運転検査結果(一部抜粋)

飲酒後は運転が雑になり、よくぶつかっている

検査項目		飲酒前	飲酒後	
実車走行	一時停止	問題なし 6 人 問題あり 3 人	問題なし 1 人 問題あり 8 人	
	スラローム	平均タイム	34.1 秒	30.5 秒
		平均接触回数	0.8 回	1.2 回
	S 字 (車幅間隔)	平均タイム	18.3 秒	13 秒
		平均接触回数	0.3 回	1 回
検査機器	画面上の障害物への 平均接触回数	66.3 回	72.1 回	

県を挙げて飲酒運転撲滅を

酒なしの場合に比べ 9.2 倍。これは、飲酒運転による事故が、死亡事故につながる危険性がいかに高いかを示しています。

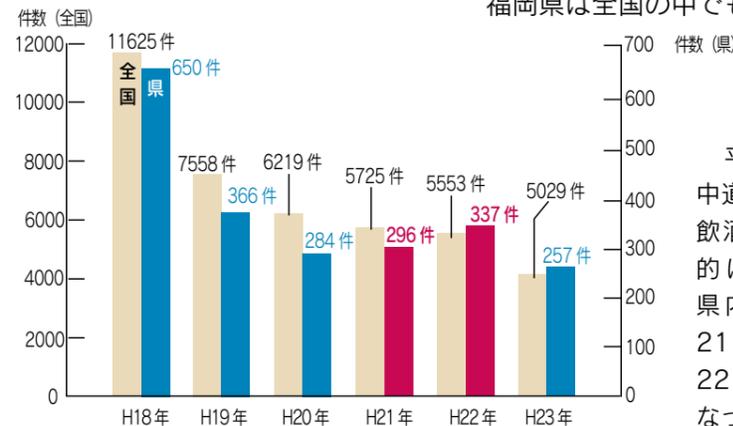
昨年 2 月、粕屋町で、高校生 2 人が飲酒運転の車によって命を奪われました。福岡市での事故を知りながら、いまだに酒を飲んでハンドルを握る人が後を絶ちません。こういった状況の中、今年 4 月 1 日に「福岡県飲酒撲滅運動の推進に関する条例」が施行。9 月 21 日からは、条例の罰則も施行されます。これ以上尊い命が失われぬために、県民一人一人が飲酒運転の恐ろしさを理解し、「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない」という強い意識を持たなければいけません。



飲酒後に行われたスラローム走行の写真。飲酒してハンドル操作が雑になったのに加え、スピードを緩めることなく走行したため、コーンにぶつかりそのまま引きずってしまった。

＜グラフ＞ 県内と全国の飲酒運転事故の発生件数

福岡県は全国の中でも高い水準で発生



平成 18 年の海の中道大橋での事故後、飲酒運転事故は全国的に減少。しかし、県内の事故件数は、21 年に増加に転じ、22 年には全国最多になってしまった。

飲酒運転の恐ろしさを知る ため実際に飲酒運転を体験

事故から 6 年後の 8 月 25 日、柳川警察署と柳川自動車学校は、飲酒運転を体験して、その恐ろしさを知ってもらおうと、同校で飲酒運転撲滅研修会を開催しました。参加したタクシーの運転手や学生など 9 人は、飲酒前後にそれぞれ実車走行と適性検査機器を使った測定を実施。実車走行ではスラロームや S 字などでタイムとコーンへの接触回数を、適性検査機器ではハンドル操作の正確性を調べました。検査の結果、飲酒後の運転では、ハンドル操作が雑になり、スピードを出しすぎるため、コーンなどへの接触回数が増えました(次ページ表参照)。警察庁のデータでも、飲酒運転の死亡率は、飲

福岡のみんなの力で、飲酒運転ゼロへ。

知っているようで知らない 飲酒運転の恐ろしさを身をもって体験

なかなか減らない飲酒事故

平成 18 年 8 月 25 日、福岡市で起こった飲酒運転事故によって、幼い 3 人の子どもの命が奪われました。事故後、飲酒運転撲滅の意識が全国的に広がり、飲酒運転に対する厳罰化が実施されました。この事故から、全国の飲酒運転事故件数は大幅に減少しました(グラフ参照)。

しかし、県内の飲酒事故件数は、21 年が 20 年の件数を上回り、22 年には全国最多になってしまいました。23 年は全国最多を返しましたが、いまだに県内の飲酒運転事故は、ほかの都道府県に比べて多くなっています。